

[研究室紹介]

宇都宮大学工学部建設学科 地域計画学研究室

古池弘隆・永井 護

はじめに

宇都宮市は東北新幹線で東京駅から1時間足らずの至近距離にあり、日光連山と鬼怒川に近い自然に恵まれた地域である。人口は43万人で北関東最大の都市であり、また宇都宮テクノポリスの指定を受け、ハイテク産業の立地が進んでいるところでもある。

宇都宮大学工学部は昭和39年に設立され、それまであった農学部、教育学部に加わった。昭和57年に土木工学科が設立され、昭和63年の学科改組で建築工学科と合体して建設学科と名称を変更した。旧土木系は構造・材料研究室、水工学研究室、土質工学研究室と本研究室の4つからなっている。

地域計画学研究室

地域計画学研究室は昭和60年に赴任した古池弘隆教授と永井護助教授が開講し、現在大学院生4名、卒業研究の学部学生11名をかかえている。古池は約20年近くをアメリカ、カナダで過ごして帰国し、永井は東京大学都市工学科助手から転任した。昭和63年以来古池は宇都宮大学情報処理センター長を兼任している。

研究活動

古池は交通計画、交通工学、地域計画を専門としているが、情報処理技術の計画への応用にも興味をもっている。最近の研究分野としては次のようなものが挙げられる。

① 地方都市の交通改善

地方都市における交通改善策として、通勤交通におけるフレックスタイム制度導入の効果について、また公共交通のあり方とバス交通の役割についての研究を行っている。さらに宇都宮地域の自転車交通の実態について調査し、第3の交通機関としての自転車の役割を明確にしようとしている。

② 交通工学

交通工学の分野では、栃木県が人口10万人当たりの

交通事故死亡者数が日本一多いという汚名返上のために、交通事故や地区交通環境に関する研究を行っている。

また、交通流データをビデオを利用して収集する手法の開発を目指している。過去にビデオとパソコンを利用した交通流の調査方法を開発したが、現在ではさらにビデオに画像処理技術を適用し交通流データの自動処理を試みている。

③ SCAの研究

一方計画論に関するものとしては、システムズ・アプローチに対する反省からイギリスで開発されたSCA(戦略的選択アプローチ)を日本に導入しようと、他大学の研究者と協力して普及活動を行っている。これは土木学会計画学研究会の分科会として承認されており、本年秋にはSCAの開発者であるジョン・フレンド氏を招聘してシンポジウムを行う予定になっている。

永井は観光計画、景観工学、都市計画が専門であり、宇都宮大学に赴任後は地元の栃木県や宇都宮市をはじめ数多くの地方自治体における都市計画、まちづくりに参画している。最近の研究活動として次の2つが挙げられる。

① リゾート・観光地計画

リゾート地、観光地の歴史をはじめ、観光客数の調査計測手法と予測方法、観光消費の経済効果等、観光地計画にかかわる計画手法の研究とともに、交通環境や沿道土地利用の観点から日光杉並木の保全や那須3街道の沿道景観条例など観光地の環境保全や景観に関する研究を行っている。

② 地区レベルの活性化のための計画論

多くの地方都市の中心商業地区や観光地において、利用者のニーズに対応できずに沈滞化が進んでいる。このようなケースを事例として、地区レベルでの街づくりにおける組織体制、住民参加の手法、計画づくりのプロセスに関する研究に取り組んでいる。

おわりに

栃木県の長期計画では21世紀は北関東の時代となるとうたわれている。たしかに広大な県土と豊かな自然に恵まれた地理的優位性をもっていることは事実である。しかし最近の急激な工業化、都市化の波は地価の高騰、交通渋滞、交通事故、廃棄物処理、自然環境破壊など数々の問題を惹起している。これらの問題解決にむけて、またこの地域の発展のために、微力ではあるがわれわれの研究が少しでも役に立てばと考えている。